

# モンテヴェルディでひも解く「初期バロック」声楽曲の歌唱法

—当時の歌手たちの教育・理論・実践へとアプローチした演奏解釈—

『イタリア歌曲集』にも収録され、声楽家が必ず触れる機会のあるモンテヴェルディなど初期バロックの声楽曲。その時代の歌唱法を、モンテヴェルディのオペラ(抜粋)や多声マドリガーレを歌いながら当時の歌手の目線での曲作りへと迫っていく講座です。同時代の音楽家が受けていたであろう音楽教育に立ち返り、同時代のイディオムを用いて以下の様々な角度からアプローチしていきます。

- ・ソルミゼーション、旋法、対位法、修辞学から行う演奏解釈
- ・現代とは異なる記譜法による演奏感覚の違い
- ・より実践的な装飾法(デミニューション)など

二日の間にレッスン、座学の時間、当時の資料を参照し実際に歌いながら演奏法を考えていく時間などを設け、最後は小さな発表会を行う予定です。

現代から遡った視点ではなく、同時代とより以前の時代からの視点を重視した楽曲へのアプローチ方法を考える講座ですので、歌手以外の旋律楽器奏者・通奏低音奏者・研究者の方の聴講も広く受け付けております。

Kiichi Suganuma

講師：菅沼 起一(音楽学者、リコーダー奏者)

京都市出身。東京藝術大学音楽学部古楽科(リコーダー)を経て、同大学院修士課程(音楽学)を大学院アカンサス音楽賞を受賞して修了。同大学院博士後期在籍中の2016~2018年度、日本学術振興会特別研究員(DC1)。バーゼル・スコラ・カントルム(スイス)音楽理論科を修了し、現在フライブルク音楽大学(ドイツ)との共同博士課程に在籍。16、17世紀の装飾技法「デミニューション」により導入された当時の最小音価であるビスクローマ(32分音符)が作曲・記譜・演奏に与えた影響を扱った研究を行なっている。スコラ・カントルムで記譜法の授業などを担当する他、ルドルフ・ルッツ指揮 J.S.バッハ財団の公演に参加するなどリコーダー演奏と音楽学研究の二足の草鞋を履いた活動を行なっている。2019~2020年度ローム・ミュージック・ファンデーション奨学生。2021年度第12回日本学術振興会「育志賞」受賞。

受講希望の方へ：

以下の課題曲を事前お渡しさせていただきます。

- ・オペラ《オルフェオ》《ポッペアの戴冠》より、一部場面の抜粋
- ・《つれないアマリッリ Cruda Amarilli》(『マドリガーレ集第4巻』)など

4月30日(土)、5月1日(日)

11:00 ~ 17:00 (昼休憩あり)

えびらホール(東急池上線・大井町線「旗の台」駅最寄)

参加費：3,000円 / 日 (対象：音大生以上、もしくはそれと同等の実力を有する方)

聴講：1,500円 / 日 (どなたでもお申込みいただけます。)

※受講者の数、声種バランスによって曲目が変更になる場合がございます。予めご了承下さい。  
※二日連続での参加が望ましいですが、一日だけの参加・聴講も可能です。  
お気軽にご相談下さい。

お申し込み・お問い合わせ：  
[info@promsinc.com](mailto:info@promsinc.com)  
03-6887-1034

0800-805-5432 (フリーダイヤル)

Toshiki Tsumuraya  
チェンバロ：圓谷俊貴